

2025年9月7日 聖霊降臨後第十三主日礼拝説教
「なぜ従うのか」(ルカ14章25～33節)

○ルカ14章25節のみことば

「大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。」
みことばに聞き、みわざを見た多くの人々が、行く道を共にしたので、救い主イエスは、彼らの思いを正そうとされた。
☞キリストは、あえて厳しい言葉をもって、従い続ける者とそうでない人を、選り分けようとされたのではないか。

○ルカ14章26節のみことば

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、」
*憎む：(キリストよりも、ほかのなにかを) 愛さない
☆たとえば、あなたが大切な家族に心を注ぎ、愛を示しても、その人の命を死と滅びから救えるのは、神の子イエスだけ。
※ひとりひとりが、キリストに結ばれることを願い求めよう。

○ルカ14章30節のみことば

「あの人は建て始めたが、完成することはできなかった」
救い主イエスは、塔を建てる人の譬えを用いて、神に従う道を歩みきるため、なにを知るべきか考えよと語っているのでは。
☆どこに向かう道なのか、歩みの中で、なにを得て失うのかをしっかりと見極め、神の憐れみにより、共に進んでいこう。

○ルカ14章33節のみことば

「*自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたの
だれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」
*【直訳】あなたがもつすべてに対して、あなたの思いを手放さないならば
☞あなたに繋がる〈すべて〉の行く末は、神の御手にあるので、キリストをとおして神に委ね、諦めず祈り続けよ。